

まほろば



2020.2
第222号

褥瘡研修を終えて

令和元年 12 月 13 日、褥瘡予防対策の最新の知識を学ぶ事を目的とし、研修会が開催されました。国立病院機構山形病院の皮膚排泄ケア認定看護師の大向由克子看護師長を講師にお招きし、『褥瘡予防の基礎知識～褥瘡予防の新常識とアセスメント』というテーマで実施しました。各病棟の褥瘡対策委員会のメンバーだけでなく、多くのスタッフの参加がありました。

研修では、褥瘡に関する基本的な知識と予防法、ずれを最小限にする体位変換やスキンケアに関するアセスメントなど、多くのことを学ぶことができました。また、研修生自身が看護師役・患者役になり体位変換や、ポジショニングを実践しました。正しい方法で、実践されないと苦痛が伴うことを実感し、安全・安楽な姿勢に保持することの重要性を再度認識することができました。今後も研修で学んだ事を実践にいかし、褥瘡予防対策を強化していきたいと思えます。

3階病棟看護師長：添田 恵美子



新型コロナウイルスについて



新型コロナウイルスのことで、みなさん大変心配されておられると思います。武漢での流行初期は病原体が何かもわからず大変な状況でしたが、次第に医学的知識が蓄積されてきました。飛沫感染で一人の患者から 2-3 人が感染すること、潜伏期間は 5 日前後でその間にもウイルスを排泄すること、リンパ球が減少すること、肺炎を起こすこと、基礎疾患をもつかたは重症化しやすいこと、かぜ症状が 3 日たっても悪化してきたら要注意です。相手が見えてくると対策ができるようになります。ジャンケンでいえば、あと出しジャンケンに近い状態です。相手がパーならチョキを出せばよいのです。慌ててグーを出すと負けます。感染対策でいえば飛沫感染対策と接触感染対策です。マスクの着用の仕方は正しいですか？アルコールの手指消毒をしていますか？飛沫を顔にあびる時は目の防御も必要です。みなさんの日頃の感染対策レベルが勝負を分けます。



ICD：杉本 和彦

暖冬と登山

2月3日の弘前市の気温は最高 7.3℃、最低 -4.3℃、最深積雪は 1cm。同じ日の平均気温は最高 1.3℃、最低 -5.4℃、平均最深積雪は 56cm というのだから、数字から見ても明らかに今年の冬はおかしい。相も変わらず山へ向かう私だが、山も例外なく雪が少なく、今年は普段であれば快適な尾根歩きができるところが藪だらけ。また、春のような穏やかな天気や濡れ雪にも驚いた。しかし今から 13 年前の 2006 ~ 2007 年は今年をしのぐかもしれない史上最高の暖冬だった。その時も、雪不足でスキー場が営業できない、各地の雪まつり

が開催できない、インフルエンザの流行が 1 ヶ月遅れる、スギ花粉の飛散時期や桜の開花時期が早まる、冬物野菜や牡蠣などの価格が下落するなど様々な領域に影響が出たそう。今年の暖冬はこの冬に、そして続く春、夏にどのような影響をおよぼすのだろうか。今のところ例年よりも手首の骨折の患者さんが少ない印象があるし、雪が降った朝の除雪や渋滞に悩まされないのはありがたいのだが、雪が少なく暖かい冬はどこか物寂しいものだ。

作業療法士：小田桐 早紀



チームで患者さんの療養環境を守る為に～看護助手研修を終えて～

当院では全看護助手が参加する看護助手研修を年3回実施しています。第一回目は、看護助手業務の範囲と責任、第二回目は医療安全と感染予防の基礎、そして今年度の第三回目の研修を12月に終了しました。

今回は、感染予防に関する知識・技術、医療体制と組織の理解のテーマで行い、対馬春子感染管理認定看護師による、実技指導が行われました。医療関連感染予防については、日常の環境整備と

感染源を適切に除去する事が重要である為、環境整備の基本と、微生物の種類と量を適切な方法で減少させる為の実践について演習を行いました。

研修に参加した看護助手の皆さんからは、多くの質問があり、真剣に取り組む姿勢が感じられました。

研修生からは、「自分達も医療チームの一員として重要な役割を担っている事を再認識した。今後も頑張っていきたい」という言葉が聞かれました。

副看護部長：黒澤 みゆき



豆まき会で鬼をやっつける!

2月3日節分の日。風の子保育園の子どもたちは自分で作った鬼のお面をかぶり、豆箱を持って豆まき会に参加しました。絵本「おなかのなかにおにがいる」を見て、自分のおなかの鬼は何の鬼なのか考えました。一番多かったのが“泣きむし鬼”でした。

鬼を的にしてチラシで作ったボールを当てるゲームをしていると『鬼がきたー!』という声で子どもたちの表情は一変。鬼の姿を見るなり、一

斉に立ち上がり、保育士の後ろに隠れようとしたり、足にしがみ付いて怖がったり、チラシ製ボールをぶついたり・・・鬼に追いかけて捕まると『いや～はなして～』、『たすけて～』とバタバタと暴れていました。

最後はみんなで『おには～そと、ふくは～うち～』と言いながら鬼と戦いました。子どもたちのおなかのなかにいる“泣きむし鬼”はもう少し大きくなったら居なくなるようです。

風の子保育園 園長：木村 美千代



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (令和2年2月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	横田貴志
呼吸器内科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		山本勝丸	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子
		下山垂矢子	田中佳人	田中佳人	—	田中佳人
		—	石岡佳子	—	—	—
消化器・血液内科		松木明彦	相原智之	相原智之	松木明彦	相原智之
		山口公平	間山恒	松木明彦	間山恒	山口公平
		佐藤年信	千葉裕樹	佐藤年信	山下覚	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	千葉裕樹	石黒陽	石黒陽
	午後 血液内科のみ	間山恒	山口公平	間山恒	山口公平	—
脳神経内科		廣畑美枝	清野祐輔	—	清野祐輔	清野祐輔
小児科		杉本和彦	佐藤工	敦賀和志	佐藤工	杉本和彦
		敦賀和志	松本麻希	佐藤啓	杉田梓	佐藤啓
		杉田梓	藤岡彩夏	藤岡彩夏	松本麻希	藤岡彩夏
外科		柴田滋	内田知顕	柴田滋	内田知顕	三上勝也
		—	堤伸二	堤伸二	堤伸二	—
呼吸器外科		對馬敬夫	—	—	—	對馬敬夫
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅
整形外科	午前	岩崎宏貴	秋元博之	秋元博之	中村吉秀	秋元博之
		藤田有紀	中村吉秀	岩崎宏貴	藤田有紀	中村吉秀
		松本健太郎	藤田有紀	松本健太郎	—	岩崎宏貴
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		飯野香理	松村由紀子	追切裕江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野香理
		松村由紀子	丹藤伴江	丹藤伴江		追切裕江
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		西澤尚徳	西澤尚徳	(手術)	西澤尚徳	西澤尚徳
		松下大佑	福岡侑	—	—	—
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	坂下仁菜	—	辰尾小百合	—
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	休診	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

雪消えて 地面はおぼむ スズメかな

(石沢)

雪ふらね 津軽のとっちゃん 空拝む

(石沢)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://hirosaki.hosp.go.jp/>

責任者：副院長 小田桐 弘 毅